

自分がしないで、誰がする？

2025.9.1 校長 西谷 秀幸

長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。今年の夏休みは、44日間。皆さんにとって、どんな夏休みだったのでしょうか。ちょっと聞いてみましょう。

「楽しいことばかりだった」という人？「楽しいこともあったけど、嫌なことやつまらないこともあった」という人？「嫌なことやつまらないことが多かった」という人？

また、1学期の終業式に、夏休みは「見通しをもって計画的に過ごそう」という話をしましたね。さて、皆さんはどうだったのでしょうか。「見通しをもって計画的に」に過ごせたのでしょうか。

そんな夏休みも終わり、今日からは2学期、新しい学習が始まります。のんびりした生活、自分の自由にできる生活は昨日までです。今日からは、学校のリズムに戻しましょう。

さて、ちょっとこれを読んでみてください。

じぶん
自分がしないで、だれがする

どんな意味が分かりますか。

これは、「私が、しなかったら、誰もしなくて困ってしまうかもしれないぞ。だから、自分が進んでしよう。」そういう意味です。

例えば、学校やあいキッズなどで意地悪をされている友達を見かけたとき、「自分が声をかけなかったら、いじめがひどくなって学校に来られなくなってしまうかもしれない…。だから、『やめなよ！』って、自分が声をかけよう！」…。そんな風に思って、自分が勇気を出して行動することです。

また、2学期もクラスや学年のこと、運動会のことなどで決めることがあると思いますが、誰もやる人がいなかったときに、「私がやります！」と言って自分から手を挙げて、クラスや学年、学校全体のために、進んで行動することです。

誰も挨拶をする人がいなかったときに「自分から挨拶をする」ことも同じですね。

でも、この文から「が」の点を取ると、こんな風になってしまうのです。

じぶん
自分がしないで、だれかする

これだと、「困っている人がいても、どうせ誰かが助けてくれるだろうから、自分から助けたりはしないよ。」というようになってしまいます。

例えば、教室や家で「誰か、ちょっと手伝って！」と言われたとき、「私が、やらなくても、どうせ誰かがやってくれるんじゃないの…。」なんて、思ったことはありませんか。「が」の濁点がなくなって「だれが」が「だれか」になるだけで全く反対の意味になってしまいますね。

「自分がやらなきゃ、一体だれがやるというのだ…」と思って毎日を過ごすのと、「自分がやらなくても、どうせ他の誰かがやってくれるでしょ…」と思って毎日を過ごすのでは、どちらの方が楽しくて充実した生活を送ることができるのか、そして、どちらの方がより良く成長できるのか、皆さんなら、もう分かりますよね。

今日から長い2学期が始まります。「自分がしないで、だれかする」ではなく、「**自分がしないで、だれがする**」…。この言葉を忘れずに、2学期は、みんなのために、「自分がやるんだ…」そんな風に自分から進んで行動することができる人になりましょう。

これで始業式の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

長い夏休みが終わり、今日から2学期がスタートします。皆さん、ゆっくり心と体を休めて充電することができたでしょうか。

準備万端だとは思いますが、急加速・急発進は禁物です。最初の1週間「白銀の3日間」の予定をしっかりと立て、1学期に作った学級や授業でのシステムを確認しながら丁寧に進めてください。その際、作ってきたシステムがほころびているときにはすぐに修正する必要があります。「あとでもいいや、来週から修正すれば…」、これでは確実に崩れてしまいます。「修正はすぐに実行!」、これが2学期最初の原則です。その修正がうまくいかないときには、学年で協力して対処していきましょう。管理職への相談も含め、くれぐれも自分だけで抱え込むことがないようにしてください。

特に、生活規律と学習規律の確立を最重点にしましょう。「朝の会・(掃除)・給食・帰りの会」の4つを丁寧に指導することが大切です。朝の会・帰りの会で、時間が長くなるのはNGです。短時間でテンポ良く進めていくと、生活規律の確立がスムーズに確率していきます。心掛けてください。

さて、2学期始業式では「自分から進んで取り組むこと」について、話をしました。各学級でもその他の内容も含めて補足をお願いします。

夏休み明けは、子供たちの変化が大きく見られることがあります。そのため、始業式が終わるまでに、必ず子供たちの前に立って様子を一人一人の様子をしっかりと見てください。話を聞く時間も、前方から一人一人の様子を観察してください。これは健康管理上のことはもちろんですが、「始業式の朝の顔には、その子の休み中の様子が表れる」からなのです。

その理由は、話を聞いている様子をしっかりと見ていると分かります。担任と目線が合わない子、うつむき加減の子などは要チェックです。つまらない夏休みを過ごした子は話に集中せずに下を見ることが多いのです。夏休みに何かあった子は、担任と視線がなかなか合いません。ですから、始業式という短い時間に、クラスの子供たちの夏休みの様子を把握してください。

この表情は、始業式の後に消えて分からなくなると言われています。ですから、始業式の短い時間が勝負です。私たちはプロの教師ですから、教室内でどの位置で見るといいのかを考えてみてください。児童理解をする絶好のチャンスですから、みすみす逃すことにはないようにお願いします。

なお、始業式前に時間がありましたら、教室に子供向けのメッセージを書いておくといいですね。長い夏休みが終わり、子供たちが教室に入ったとき、「さあ、がんばるぞ!」という気持ちになるような言葉を書いていただけると、2学期のスタートが違ってくると思います。また、始業式後の学級指導では、夏休み中の病気やけがの有無、休み中にいじめがなかったかなどを確かめておいてください。必要に応じて、御家族の状況なども、できるだけ聞いておくことも大切です。

最初の週は、頭・体・心のすべてがきつと感じます。私たち大人も心身ともに体調を崩さぬよう、1つ1つよろしくをお願いします。

【資料】白銀の3日間について

担任がクラスを組み立てる機会は年に3回あります。各学期のそれぞれ始めの3日間です。その最大の機会は、1学期最初の3日間（黄金の3日間）ですが、長い夏休みが終わった2学期は、休みモードから一気に学校モードへと切り替えをしなければならぬため、1学期に次いで重要です。ちなみに、この2学期始めの3日間を4月始めの「黄金の3日間」に対し「白銀の3日間」と呼びます。

「夏休みが終わった。さあ学校が始まるぞ。」という積極的な子供たち。「夏休みが終わってしまった。あ～あ、学校が始まるのか。」という消極的な子供たち。前者には学習システムの点検が、後者には学習の楽しさを味わわせることが大切です。

2学期は、一番長く学校生活が続きます。「楽しいクラス」「楽しい学校」になるように、最初の3日間でシステムを確認したり作り直したりし、ささいなことでも大いにほめて楽しいスタートをきってほしいと思います。